

II 各教科の正答率、誤答例及び所見

5 英語

(1) 正答率

問題	配点	正答		一部正答		誤答		無答		通過率 率 = $\frac{\text{得点計}}{\text{人} \times \text{配点}}$ (%)	
		数	率 (%)	数	率 (%)	数	率 (%)	数	率 (%)		
1	問 1	2	436	90.8%	0	0.0%	43	9.0%	1	0.2%	90.8%
	問 2	2	366	76.3%	0	0.0%	113	23.5%	1	0.2%	76.3%
	問 3	2	92	19.2%	0	0.0%	387	80.6%	1	0.2%	19.2%
	問 4	2	278	57.9%	0	0.0%	200	41.7%	2	0.4%	57.9%
	問 5	2	287	59.8%	0	0.0%	190	39.6%	3	0.6%	59.8%
	問 6 (1)	3	396	82.5%	4	0.8%	60	12.5%	20	4.2%	82.8%
	問 6 (2)	3	280	58.3%	83	17.3%	83	17.3%	34	7.1%	68.5%
	問 6 (3)	3	234	48.8%	49	10.2%	147	30.6%	50	10.4%	54.2%
	問 7 (1)	3	265	55.2%	0	0.0%	212	44.2%	3	0.6%	55.2%
	問 7 (2)	3	118	24.6%	0	0.0%	359	74.8%	3	0.6%	24.6%
問 7 (3)	3	370	77.1%	0	0.0%	106	22.1%	4	0.8%	77.1%	
2	問 1	3	392	81.7%	0	0.0%	83	17.3%	5	1.0%	81.7%
	問 2	3	301	62.7%	1	0.2%	155	32.3%	23	4.8%	62.8%
	問 3	3	354	73.8%	0	0.0%	122	25.4%	4	0.8%	73.8%
	問 4	3	198	41.3%	38	7.9%	171	35.6%	73	15.2%	45.8%
3	問 1	3	49	10.2%	45	9.4%	339	70.6%	47	9.8%	15.4%
	問 2	4	171	35.6%	15	3.1%	274	57.1%	20	4.2%	37.4%
	問 3	4	251	52.3%	0	0.0%	227	47.3%	2	0.4%	52.3%
	問 4	4	144	30.0%	33	6.9%	150	31.3%	153	31.9%	33.1%
	問 5	3	283	59.0%	0	0.0%	193	40.2%	4	0.8%	59.0%
	問 6	4	264	55.0%	0	0.0%	210	43.8%	6	1.3%	55.0%
	問 7	4	34	7.1%	65	13.5%	211	44.0%	170	35.4%	14.4%
4	問 1 (1)	3	180	37.5%	0	0.0%	298	62.1%	2	0.4%	37.5%
	問 1 (2)	3	194	40.4%	0	0.0%	282	58.8%	4	0.8%	40.4%
	問 2	4	2	0.4%	149	31.0%	177	36.9%	152	31.7%	13.6%
	問 3	4	68	14.2%	189	39.4%	106	22.1%	117	24.4%	30.5%
	問 4 (1)	3	205	42.7%	2	0.4%	167	34.8%	106	22.1%	43.0%
	問 4 (2)	3	86	17.9%	14	2.9%	249	51.9%	131	27.3%	19.7%
	問 4 (3)	3	61	12.7%	4	0.8%	279	58.1%	136	28.3%	13.3%
問 4 (4)	3	45	9.4%	9	1.9%	281	58.5%	145	30.2%	10.5%	
5		8	15	3.1%	349	72.7%	58	12.1%	58	12.1%	41.7%

(小数点以下第2位を四捨五入しているため、%の合計が100にならない場合がある。)

(2) 各問題の誤答分析及び所見

今回の学力検査の平均点は、45.0点であった。標本の通過率は44.8%で、標準偏差は23.66であった。出題数は大問が5題、小問が31題で、昨年と同数であった。その中で、記述問題は16問、選択肢問題は15問となっている。内容は、大問1が28点満点で放送を聞いて答える問題、大問2が12点満点で短めの文章を読み取る問題、大問3が26点満点で会話文を読み取る問題、大問4が26点満点で長めの文章を読み取る問題、大問5が8点満点で英作文となっており、出題の傾向に変更はなかった。

① 大問1は、放送を聞いて答える問題である。会話やまとまりのある英語を聞いて、概要や要点を聞き取る力をみようとしたものである。大問1全体の通過率は60.5%であった。

問題1から問題3は、二人の会話を聞いて、絵の中から質問に対する答えとして最も適切なものを答える問題である。問題3の通過率は19.2%で、大問1の中で最も低かった。問題3の誤答としてはウが最も多く、誤答全体の約7割であった。AkiraのI'll speak at 11:35, after Midori.という発言を直接解答に結び付けてしまったためと考えられる。

問題4と問題5は、「ある場面」を説明する英文を聞いて、その場面に応じた適切な表現を選ぶ問題である。ともに通過率は60%弱であった。複数の文から、その場면을具体的にイメージする力を身に付けさせたい。

問題6は、Taro とクラスメートの Lucy との会話を聞き取り、その内容について日本語で答える問

題である。(3)は通過率がやや低かった。正答とならなかった解答には様々なものがあったが、その中でも、「カナダの友だちに教わる」といったものが複数あった。放送された内容を十分に聞き取れなかったためと思われる。会話の概要を聞き取るとともに、大切な情報を正確に聞き取る力が求められる。

問題7は、留学生の Bill が行ったスピーチを聞き取り、その内容に対する質問の答えとして最も適切なものを選ぶ問題である。(2)の通過率は24.6%で最も低かった。誤答はイとエが多く、March や June など聞き取れた情報をそのまま解答に結びつけたためと考えられる。部分的な単語が聞き取れるレベルから、まとまりのある英語を聞いてその概要が聞き取れる力を身に付けさせたい。

「聞くこと」の指導については、問題1のような短めの英語を聞くことから慣れさせ、継続的に指導をする中で、問題6や問題7のようなまとまりのある英語についても、その概要や要点を聞き取ることができる力を身に付けさせたい。

② 大問2は、短めの英文を読んで、あらすじや大切な部分を読み取る力と読み取った内容を英語で表現する力、及び基礎的な語や文法事項の定着をみようとしたものである。本文の単語数は約170語で、大問2全体の通過率は66.0%であった。

問1は、But Yumi wanted to buy one more T-shirt.を補う最も適切な箇所を答える問題である。通過率は81.7%であった。普段の授業の中で、接続詞の働きや代名詞の指すものを意識しながら英語を読む習慣を身に付けさせたい。

問2は指示された語の適切な形を答える問題である。通過率は62.8%であった。形容詞の比較変化などの基本的な文法項目の定着とともに、基本的な語彙の定着を図っていききたい。

問3は英文の内容から判断して、空欄にあてはまる最も適切な語を選ぶ問題である。通過率は73.8%であった。誤答はエの which が誤答全体の5割弱であった。関係代名詞の who と which を使い分けることができるように指導をしていきたい。

問4は、本文の内容を読み取り、その内容に関する英語の質問に対して、英語で答えるものである。通過率は45.8%で、大問2の中では最も低かった。誤答の中には、(They) are buy two T-shirts.や(They) liked the presents.など、動詞の使い方に課題のあるものや、質問に正対していないものが見受けられた。本文の内容を読み取るとともに、英語の質問文を理解し、質問に正対した答えを英語で書く力を身に付けさせたい。

③ 大問3は、会話文を読んで、あらすじや大切な部分を読み取る力と、場面に応じて英語で適切に表現できるかをみようとしたものである。本文の単語数は約450語で、大問3全体の通過率は38.2%であった。

問1は、会話の流れを読み取り空欄Aに入る適語を記述する問題である。通過率は15.4%であった。正答とならなかった解答には様々なものがあった。会話の流れを読み取る力が必要であり、語彙力や動詞を適切な形に変える力を身に付けさせたい。

問2は、自然な会話になるように、7つの単語を適切な語順にする問題である。通過率は37.4%であった。誤答では、what do you like kind of fruit という語順が多くみられた。疑問詞を含む疑問文には十分に慣れさせたい。

問3は、会話の流れに合わせて、空欄に適切な文を補う問題である。通過率は52.3%であった。誤答はウが多く、誤答全体の約5割であった。空欄の後の My sister studies nutrition at university.と関連付けてウを選択したものと思われる。会話の内容を正しく理解する力を身につけさせたい。

問4は、本文の内容に関する日本語の質問に日本語で答える問題である。通過率は33.1%であった。正答とならなかった解答の中では、本文で述べられている担任の先生の言葉を、正確にとらえていないものが目立った。本文を読んで情報を正確にとらえる必要がある。

問5は、本文の内容に合っている英文を選ぶ問題である。通過率は59.0%であった。問5の誤答はエが多く、誤答全体の7割であった。正答の選択肢を選ぶためには、本文のあらすじを読み取り、その文脈から判断する必要がある。

問6は本文の内容に合っている英文を選ぶ問題である。通過率は55.0%であった。問6の誤答ア、イ、ウは、ほぼ同じ割合であった。それぞれの選択肢のキーワードから本文の該当箇所を的確に把握し、本文と選択肢が一致しているかどうかを正確に読み取ることが大切である。

問7は与えられた場面に応じて適切な疑問文を答える問題である。通過率は14.4%であった。疑問文の形と時制が正確に理解できていないものが目立った。授業の中で、適切な場面を設定し、疑問文を使用する機会を増やし、その疑問文を正確に書けるように指導していくことが望ましい。

④ 大問4は、Mayumi と Ayako が、環境について考え、高校に進学してやりたいことについて書かれた英文を読んで答える問題である。まとまりのある文章のあらすじや大切な部分を読み取る力をみようとしたものである。本文の語数は約520語で、大問4全体の通過率は25.7%であった。

問1は、本文の内容に合うように、与えられた英文の続きを選択肢から選ぶ問題である。(1)は、本文の第2段落を読み取ることで解答できる。通過率は37.5%であった。誤答はイが最も多く、誤答

全体の約8割であった。同じ第2段落の *Mayumi and Ayako were on their way home from school* からイを導き出したものと考えられる。(2)は、Ogawa 先生が考えている内容を表す *that* 節を選ぶ問題である。通過率は40.4%であった。誤答はアが最も多く、誤答全体の約6割弱であった。

問2は、本文の内容に関する英語の質問に英語で答える問題である。通過率は13.6%であったが、正答率が0.4%と低かった。正答とならなかった解答には、問題の意図はとらえていたが、時制、綴り、その他の誤りを含め複数の誤りのあるもの、また文の構造に大きな誤りがあるもの、問題に正対していないものなどがあつた。問題に正対していない誤りの中には、*Yes, they did.* のように *Yes-No* で答えてしまったものがあつた。本文の内容を読み取る力、英語の質問文を理解する力、そして語と語のつながりになどに注意しながら質問に正対した答えを英語で書く力を身に付けさせたい。

問3は、本文の内容に関する日本語の質問に日本語で答える問題である。通過率は30.5%であった。昨年度の通過率も30.5%であり、引き続き、本文のあらすじや大切な部分を読み取る力を身に付けさせたい。

問4は、本文の内容をまとめた英文の空欄に適切な語を答えさせる問題である。(1)～(4)の誤答は、それぞれ多岐にわたっていた。(1)の通過率は43.0%で、誤答の中では *cried*、*understood*、*said* など、動詞を答えたものが多かった。(2)の通過率は19.7%で、誤答の中では *need* が多かった。本文の中で、解答の手がかりとなる部分を見つけることはできたが、解答箇所()の部分にどのような単語が入るのかまでは理解できていなかったものと思われる。(3)の通過率は13.3%で、誤答の中では *for* が多かった。動詞を答えるべきところであることが理解できなかったためと思われる。(4)の通過率は10.5%で、誤答は多岐に渡っていた。

以上のような誤答例を参考に、様々な言語活動のなかで理解が不十分だと思われる文法事項や文構造の指導を充実させるとともに、語彙の定着につながる活動についても一層の充実を図りたい。

5 大問5は、与えられた条件に従い、自分の考えや気持ちなどが相手に伝わるように、英語で適切に表現できるかをみようとしたものである。指示文では、自分の行きたい場所について5文以上の英文を書くよう指示がある。その際の条件として、1文目は *if* を使って「もし日曜日が晴れならば、～に行きたい。」という意味になる英文を、2文目は *have* を使って、1文目で書いた場所に「行ったことがある。」または「行ったことがない。」という経験を書くように示されている。配点は8点である。通過率は41.7%で、昨年度の50.3%より8.6%下がった。

正答とならなかった解答の多くが、綴り字の誤り、動詞や名詞の形の誤り、文構造上の誤り等のため、英文の内容を理解するのに支障をきたすものであつた。そのなかでも、特に顕著だった誤りの一つは、主語の欠落である。「もし日曜日が晴れならば=*If it is sunny on Sunday*」の *it* や、「～に行きたい=*I want to go to ~*」の *I* は、問題の指示文には表れていない。しかし、英語の文では、常に主語が必要である。よって、伝えようとする内容の日本語に主語が表れていない場合は、何を主語にするのかを自分で考えて英文を書かなくてはならない。このような英語と日本語の違いに着目した指導は、中学校で継続的に行っていかななくてはならない重要な指導事項である。

その他の誤りとしては、*if* 節の中の動詞の形に関する誤りや、「行ったことがある」という「経験」を表す表現 (*have been to ~*) についての誤りが多く見られた。解答に *want* を使った英文に関する誤りも依然として多く、定着させるための指導が必要である。

英作文の指導は、生徒たちの学習の実態に応じて行わなければならない。その中で、穴埋めや英文の一部を置き換えさせるような指導だけではなく、自分の思いや考えなどを伝える活動を取り入れた。そして、英語を書く際、主語を適切に設定させながら英文を書かせる学習に取り組ませることで、英語で文を書くコツをつかませることが大切である。そして、自己表現をするときによく使われる表現については、様々な場面や状況を設定するなど、少しずつ難易度を上げながら何度も繰り返し指導する中で、正確に使える力を身に付けさせたい。

トピック

英語の質問に英語で答えることに慣れさせる

平成26年度の入試では、大問2の間4と大問4の間2で、それぞれ本文の内容に対する英語の質問に、英語で答える問題が出題された。大問2の間4の通過率は、大問2の中では最も低く45.8%、大問4の間2の通過率は、大問4の中でも低く13.6%であった。

入試問題で英語の質問に英語で答えるためには、「本文の内容を理解する力」、「英語の質問文を理解する力」、「質問に正対した答えを英語で書く力」が必要である。日常の指導の中では、口頭で英語の質問に英語で答える場面が多数あるが、書かせる指導とも関連させたい。

日頃から、英語の質問に英語で答える指導にあたっては、英語の複数の技能を総合的に育成する視点を持ち、生徒の学習の実態に応じて、継続的に指導することが大切である。

【授業中の活動例】

例えば、中学1年生の早い時期から、以下のような簡単なQ&A活動を、パターンをかえて繰り返し行うことで、英語で答えることに慣れさせる。

A: Do you like sports? / Do you like music? / Do you like Japanese food?

B: Yes. / No.

A: What sports do you like? / What music do you like? / What Japanese food do you like?

さらに、Q&A活動の最後に、上記のように会話で使用した英語を書かせ、英語を書くことにも慣れさせていくことが大切である。

英語の質問に英語で答える活動に慣れてきたら、教科書の本文の内容を英語で質問し、英語で答えさせる活動も有効である。例えば、今回の大問2を教科書の本文とすれば、以下のように単純な疑問文にして英語で質問する。

Did Junko and Yumi go shopping to buy a birthday present for their father?

What were they looking for at a shop?

What did they find? Did they think it was cool?

これらを口頭で行えば、「話すこと」や「コミュニケーション活動」、自らの考えなどを相手に伝えるための「発信力」へとつなげることができる。また黒板に質問文を書き、生徒がノートに写して答えれば、英語の質問に英語を書いて答える練習になる。

